

第3期八幡平市小中学校適正配置計画（案）の意見募集（パブリックコメント）実施結果

- 1 意見募集期間：令和5年1月10日から同月31日まで
- 2 意見提出者数：1名
- 3 寄せられた内容と市の見解・対応等（質問・意見等は、寄せられた文章をそのまま記載しています。）

質問・意見等	市の見解・対応等
<p>1. この計画は令和4年から令和13年度の10年間です。 現在の社会、人口現象の流れは急速です。 計画を短縮すべきではありませんか。</p>	<p>計画書の15ページの「5 計画の期間」に記載のとおり、「本計画は、令和4年度から令和13年度までの10カ年です」が、「保護者及び地域住民への住民説明会を進める中で、統合についての早期実施もしくは延期などの意見要望等が強く出された場合や児童生徒数の推移等の状況をみながら、必要に応じて計画の見直しを行います」としています。 つまり、計画としては10年間ですが、必要に応じて見直しを行いながら推進するものです。また、10年を待たず統合をすることも考えられます。</p>
<p>2. 統合による校舎云々よりも、子どもたちをどう学校、市、保護者、地域で育てるべきかです。 現在、地域住民は、学校からの距離（情報）が遠く、関心を持つ人も少ないように感じます。 小・中学校へ保護者は関心を持つことは、あたりまえの事ですが、学びフェスト集計を見ても首をかしげることもあります。 子どもが卒業してしまえば、関係ないと言う方もいます。 どこに原因があるのでしょうか？</p>	<p>計画書の11ページの「(3) 地域との連携強化」にあるとおり、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組むためのコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）が「地域とともにある学校」となるための有効な仕組みとなります。 これからも、コミュニティ・スクールにおいて、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことが重要と考えています。</p>
<p>3. ページ10の適正規模・適正配置 2(1)教員による発達段階に応じたきめ細やかな指導へ現(2)のことも、同じではないでしょうか。 (2)指導体制の充実化 複式学級や～教員にとって負担が大きい～ 教員の指導体制は国からの決められた数で配置されているのでは。現状において、それをしていく国への改善が、子どもへ向けられるのはおかしなことと思います。 教員の資質は、教員採用時にはわからないと、県教委で言われました。 部活も地域への移行、すすめられているようです。 子どもに向かい合う教員の心がまえがこういう問題を解消していくのではありませんか。</p>	<p>計画書の10ページ2(1)は、「学習・生活環境の充実化」の視点で、(2)は「指導体制の充実化」の視点で記載しているものであり、これらは密接に関連しているものであることから、重なりと捉えられる部分も出てくるものと考えております。 また、複式学級においては、2学年にわたる指導を行うこととなり、準備等に係る時間もより必要となります。複式指導は、より高度な技術が求められると一般的にも言われており、教職員はそのための研修も実施しながら、日々の教育活動を行っております。 現在においても国や県の配置定数のもとに、教職員が日々子どもたちに向き合っておりますが、複式学級や過度の小規模化は、「指導体制の充実の観点」からすると、問題となる場合があると考えております。</p>
<p>4. 保護者のアンケートもですが、子どもたちへのアンケートも必要と思います。</p>	<p>未成年の子ども、特に小中学校の義務教育年齢の児童生徒については、保護者が教育を考えることが必要と捉えています。 つまり、「親権を行う者（父母等の保護者）は、子の利益のために子の観護及び教育する権利を有し、</p>

	<p>義務を負う」という趣旨により、学校の在り方を含め教育環境を判断すべき立場にあるものと考えています。</p> <p>なお、「保護者は子の人格を尊重する」ことも必要とされていますので、アンケートの回答に当たっては、家庭内の話し合いが重要とされます。</p>
<p>5. 安代地区での小中一貫教育</p> <p>安代地区ならではの特色のある教育が実現できるとありますが、市は西根松尾と安代との教育分断をするのですか。</p> <p>八幡平市としての教育理念は何んなのでしょうか。</p> <p>その下に西根、松尾、(統合) 安代の特色を出すはわかりますが・・・</p> <p>小中一貫教育で可能となる教育活動に、生活指導上の事案や不登校対応に指導効果～とは、10年も先にまで持ちこすのでしょうか？</p> <p>いじめ、不登校は、現在でなくさなければならぬ問題ではないでしょうか。</p> <p>現在のグレーゾーンは、現在で解決し、統合は子どもたちも混じえて、未来を考える方向にして欲しく思います。</p>	<p>安代地区での小中一貫教育についてですが、現在、安代中、安代小、田山小の3校は、それぞれ別々の学校であることから、当然それぞれの目標があり、それに向けた教育課程が展開されています。これは、一部の学校を除き、日本全国の小中学校がそのような状況にあります。</p> <p>その中で、現在においても安代地区では小学校同士の連携、小学校と中学校の連携が行われていますが、現在の3校はそのまま残しながら、一層その連携を強化していくことで、9年間を見通し、目標を共有化したり、学習についても系統的なことを行ったりすることができるようにすることで、子どもたちの学びをより充実させていきたいということです。</p> <p>また、「西根松尾と安代との教育分断」ということについては、前述のとおり個別の学校ではそれぞれの目標がありそれに向けた教育が展開されているところですが、安代地区の小中学校については、学校同士の連携を尊重しながら、より強固なものにしたいと思っています。学校運営については、各校長が作成するものではありませんが、市教育委員会としては、市内全小中学校の連携を望んでいます。</p> <p>なお、不登校等のことについては、従前から教育相談員や児童生徒支援員等が支援しています。計画書に記述した内容については、より複雑な案件に的確に対応できるという趣旨です。</p>